



まんだらげ

広報誌「まんだらげ」
の名称について

和歌山を代表する江戸時代の外科医・華岡青洲が全身麻酔薬として用いた植物「曼陀羅華(まんだらげ)」から引用しています。花に「医」の文字をデザインしたものは、本学の校章にも採用されています。

26

2013 秋号



Photo: 日高川町笑い祭り

CONTENTS

- 特集／耳鳴研究で成果
- 専門職紹介／部門紹介／診療科紹介
- TOPICS
- お知らせ
- 掲示板

理念

私達は安全で質の高い医療を提供し、地域の保健医療の向上に貢献します。

基本方針

- 1 患者さんとの信頼関係を大切にし、安全で心のもった医療を行います。
- 2 高度で先進的な医療の研究をすすめる成果を反映した医療を行います。
- 3 豊かな人間性と優れた専門技術を持った医療人を育成します。
- 4 和歌山県の基幹病院として、地域の保健医療に貢献します。

新たな治療の糸口発見

耳鳴研究で成果

脳科学研究を進める和歌山県立医科大学の共同研究チームは、重症の耳鳴に関して原因となる脳領域を特定しました。聴覚とは直接関係がない脳内領域と症状に関連性があることを突き止めました。

【共同研究チーム】

耳鼻咽喉科学教室
神経精神医学教室
生理学第一教室
解剖学第一教室
和歌山南放射線科クリニック

耳鳴は深刻な事態を生むことがあります

耳鳴は実際には音がしないのに音が聞こえるように感じる現象で、日本人では300人に1人がひどい耳鳴に悩まされているといえます。その原因は不明で根本的な治療方法もなく、受け皿がわからないため精神的に病んでしまい、ときには自殺に追い込まれるような深刻な事態に陥ることもあります。最近、脳に原因を探る研究が注目されています。

耳鳴の脳領域を特定

和歌山県立医科大学では、患者さんの切実な訴えに応えようと、耳鼻咽喉科、神経精神科、基礎医学教室(生理学第一講座、解剖学第一講座)と最新鋭のMRIを持つ和歌山南放射線科クリニックで耳鳴の研究チームが組織され、平成23年5月から研究がスタートしました。全国から患者さんが、被検査者として研究に参加しました。MRIを用いて独自で開発した脳内ネットワーク解析法により、脳全体でつながりの程度と耳鳴の症状との相関を調査しました。ただし、通常のMRI検査とは異なり、安静時機能的MRI (rfMRI) という、特殊な撮影方法と解析方法ですので、他院で撮影したMRI検査の結果をご持参いただいても、解析できません。

耳鳴の音量と、耳鳴の苦痛度とは相関しませんでした。つまり、音が小さくても苦痛の強い人がいますし、逆に音が大きくても気にしない人がいます。耳鳴による苦痛度に関連する脳の領域は、左右の直回、および左右の前および中帯状回でした。帯状回は、大脳辺縁系といい、情動に関係しています。うつ病の患者

では、この領域の脳実質の容積が減少しているという報告もあります。耳鳴の苦痛が強い場合は、うつ病に近い状態と言えます。一方、耳鳴の音量に関連する脳の領域は、デフォルトモードネットワーク(内側上前頭回と帯状回の後方)と感覚情報を統合する系(視床、被殻、海馬)でした。デフォルトモードネットワークとは、目を閉じ、何も作業をしないで、ぼ~としている時に、むしろ活性化する脳の領域です。大きな耳鳴が鳴り響いている状態では、たとえ苦痛ではなくとも、デフォルトモードになれない、つまり耳鳴が気になっていると考えられます。また体内、体外の情報が集まる視床などが関係するところから、脳内で発生した耳鳴の信号が、これらの領域に集まっていることを示唆します。

耳鳴は脳のネットワークの異常が原因か

耳鳴患者さんの脳のrfMRI検査結果などから、具体的な脳の関連領域や症状とのつながりを特定したのは当研究チームが世界で初めてです。耳鳴は脳のネットワークの異常が原因であると分かりました。更に研究を続けることで、耳鳴の方の、脳内の異常部位や、その詳細、例えばその領域が異常に活性化しているのか、逆に異常に機能が低下しているのかが分かってくると考えています。ターゲットをもっと明らかにすることで、新たな治療法の開発ができます。

当研究チームでは新しい検査(SPECT検査、脳血流検査)を加えて、耳鳴患者さんの脳の状態をより詳細に把握して、その結果を踏まえて、科学的な治療法の開発を目指していきます。



耳鼻咽喉科学教室

山中昇教授

神経精神医学教室

篠崎和弘教授

生理学第一教室

金桶吉起教授

解剖学第一教室

上山敬司准教授

「耳鳴の脳内ネットワークの解明-SPECTとrfMRIによる検討」臨床研究のご案内

検査概要

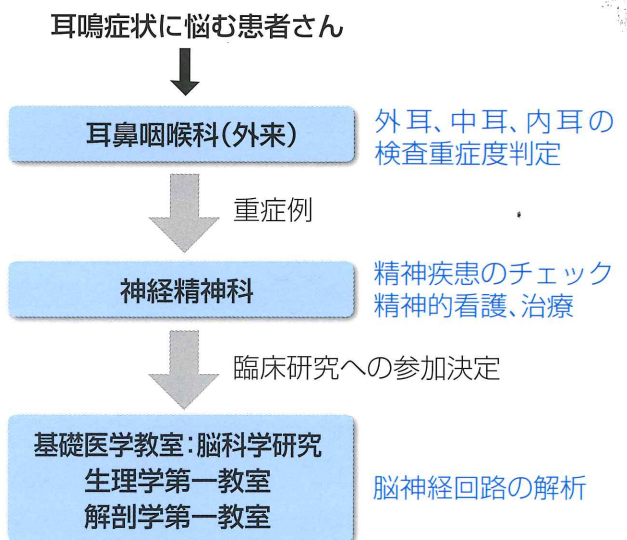
- 耳鳴の病態を解明するために、一部の患者さんにおいて、研究のための、詳細な臨床検査(耳鼻咽喉科と神経精神科)および脳機能画像検査(SPECTとrfMRI)を行っています。
- 自己負担が3万円かかります。
- お時間は1日半(水曜日全日と木曜日午前中)週1回でお一人限りとなっています。

留意事項

- すべての患者さんで、その症状に応じた標準的な耳鳴の診療や治療を行っていますが、現在のところ、大学として特別な治療は実施していません。
- 検査の対象外の場合があり、希望者の方でも全員は対象になりません。
- 対象は聴力が正常範囲の方、年齢が20歳から60歳までです。特に次の方は被験者になれません。
 - ・てんかん発作、脳外科疾患、心臓疾患、精神障害などの既往
 - ・てんかんの家族歴
 - ・頭部の強磁性物質・心臓ペースメーカー挿入例

- ・妊婦
- ・極度の閉所恐怖症
- ・現在治療中の耳鼻科疾患(突発性難聴、メニエール病など)
- 研究への参加決定から検査まで待機期間を要します。

研究参加への流れ



問い合わせ先

○診察予約に関すること: 電話予約センター
※詳しくは最終ページ「インフォメーション」をご覧ください。

電話番号: 073-441-0489



治療から心のサポートまで 患者さんの満足度を高めたい



診療放射線技師
放射線治療専門放射線技師
放射線治療品質管理士

坂本 隆紀

放射線治療では、セラピストの役割を担っている我々放射線技師が、毎日同じ患者さんと接することとなります。毎日様々な質問を受けるのですが、その質問に専門家としての知識を持って答えることで、患者さんに安心していただくという思いから、放射線治療専門放射線技師の認定を取得しました。その後、当院の放射線治療の質の向上に貢献するために放射線治療品質管理士を取得しました。

放射線治療品質管理士の認定は放射線治療専門放射線技師でなければ取得できません。当院でも、最新の放射線治療装置であるトモセラピーが導入され、より高精度な治療を提供することとなりました。

今後は、今まで以上に「患者さんの安心と納得」に重点を置き質の高い治療を提供できるように頑張りたいと考えています。

装置の安全管理の徹底と 患者さんとの心のつながりを大切に



診療放射線技師
放射線治療専門放射線技師
放射線治療品質管理士

原田 眞二

放射線技師として今年で14年目。私の専門は放射線治療です。がん細胞への放射線量は微妙なさじ加減をコントロールする技術が必要です。また、多くの不安を抱えるがん患者さんに、専門的な立場から丁寧にアドバイスすることが、患者さんの大きな安心につながります。そこでもっと知識を深めようと、放射線治療専門放射線技師、放射線治療品質管理士を取得しました。現在は認定心理士の認定取得に向けて取り組んでいます。

装置の安全管理・品質管理はもちろん、放射線治療全体の質の向上をめざしています。そして患者さん一人ひとりの心の支えになりたいですね。治療を終えた患者さんが元気になって訪ねてきてくれたとき、この仕事に就いた喜びを感じます。



安心で安全な薬剤の提供と管理

薬剤部は、薬剤師30名、薬剤助手を含む臨時スタッフ10名が勤務しています。

一人ひとりの患者さんに安心で安全な薬物療法を提供できるように、各診療科及び他部門の医療スタッフと連携を取りながら、より良い薬物療法の推進に努めています。

調剤室では、外来・入院患者さんの内服薬・注射薬の調剤を中心に、注射薬の混合調製等も行い、薬の量や相互作用、重複処方がないかなどのチェックはもちろん、必要に応じて薬の効能や注意事項についての情報も提供しています。また、先端的な治療を行う時に使用される市販されていない特殊な薬剤の調製も行っています。

入院患者さんの持参薬を調べ、薬の効能・効果はもちろん薬が正しく服用されているか、副作用が出ていないか等については病棟担当薬剤師がチェックす



るとともに服薬指導等も行い、医薬品が適正使用されるよう医師や他の医療スタッフに情報提供もしています。

医薬品情報管理室では、医薬品の適正な使用・購入及び管理を図るため、あらゆる医薬品の情報を収集・整理するとともに、院内での副作用情報の収集も行い、院内外へ情報提供を行っています。

さらに、教育機関として市民公開講座への参加、学生実習の受け入れも行っています。

その他、感染制御、褥創対策、栄養サポート、緩和ケアなどの医療チームの一員として参加するとともに、化学療法センター、中央手術部にも薬剤師を派遣し、患者さんはもちろんのこと、他の医療スタッフへの安心で安全な医療の提供を心がけています。



診療科紹介

第二内科(消化器内科)

全国有数の実績を誇る内視鏡治療

教授 一瀬 雅夫

第二内科は消化器疾患診療を専門に行っており、最高水準の消化器診療を提供すべく努めております。がん診療連携拠点病院として、「がん治療」を中心に、消化管・肝臓・胆膵の3グループで対応しております。関西圏で最も早く早期胃癌の内視鏡的粘膜切開剥離術(ESD)を導入した事をはじめ、食道、胃、大腸の早期癌内視鏡治療に関しては、井口講師の下、質・量とも全国有数の診療実績を誇り、他府県からも多数の患者さんが来院されます。肝臓疾患においては、肝疾患診療連携拠点病院として玉井講師の下、診療を行っております。特に肝癌ラジオ波焼灼術では、毎年全国トップ10の診療成績を上げる本領域第一人者の玉井講師は度々メディアにも



取り上げられるため、全国から患者さんが来院されます。胆膵専門医は全国的に稀少で、本県では、当科が本領域内科診療の中心的役割を担っており、膵仮性嚢胞に対するネクロセクトミー等(※)の先端医療にも積極的に取り組んでおります。領域を超えて、がん集学的治療のエキスパートであるがん治療認定医も多数在籍しています。また、これまで手薄だった厚労省特定疾患である炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎やクローン病など)領域において、第一人者の一人である加藤准教授が着任し、日本でトップクラスの炎症性腸疾患診療を行っております。

※「ネクロセクトミー」とは、膵臓内および膵臓の周囲の脂肪組織内が死滅した部分のみを取り除く手術のことをいいます。

第二外科(消化器・内分泌・小児外科)

高水準の治療の提供

教授 山上 裕機

第二外科は、和歌山県全域のみならず大阪府を含めた他府県からの診療の御要望にも応じています。食道・胃・大腸・肝臓・胆道・膵臓・脾臓などの消化器疾患や甲状腺・副腎など内分泌疾患、小児疾患に対する診療を行い、年間手術件数は900例を超えハイボリュームセンターとなっています。日本外科学会・日本消化器外科学会・日本消化器病学会・日本肝胆膵外科学会・日本消化器内視鏡学会ほか各種所属学会の認定修練施設に選ばれており、多数の指導医・専門医を擁し最新の治療法を提供しています。

実績が認められ肝臓癌・胆道癌・膵臓癌などの高難度手術に対する高度技能指導医2名・高度技能専門医3名が認定され、胃癌・大腸癌など



消化管癌に対する腹腔鏡手術に対する指導的立場である技術認定医も5名認定されています。

先端医療として癌に対する免疫療法の一環として、癌ワクチン療法を食道癌と膵臓癌に対して行っており、新たな癌治療の開発を目指しています。早期癌に対する内視鏡治療や十二指腸乳頭部切開、胃瘻造設など治療内視鏡も積極的に行い年間約4,000例の内視鏡を行ってまいります。



TOPICS

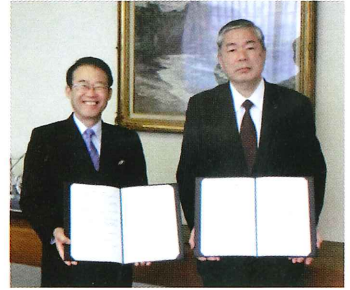


和歌山県立医科大学と住友電工が包括的連携協定を締結

平成25年7月10日に和歌山県立医科大学と住友電工が包括的連携協定を締結しました。

先進的医学研究に基づき高度医療を実践する和歌山県立医科大学が有する多様な医療分野のニーズと、住友電工が保有するモビリティ、エネルギー、コミュニケーション分野を中心に培ってきた技術をマッチングさせることで先進的な医療機器の創出等を実現し、日本の医療機器産業の発展や国民福祉の向上に貢献していきたいと考えています。

具体的には、年4回程度のマッチング交流会を開催し、今後も様々な分野で有望な共同開発テーマの探索を進めていきます。また、共同開発を進める中で、必要に応じて両者の研究者の交流も促進していく予定です。



次世代の医療に貢献する魅力あふれる看護師の仕事

■ふれあい看護体験

平成25年7月30日(火)に看護師を目指している高校生を対象に、和歌山県看護協会が主催する「ふれあい看護体験」を実施し、30名の高校生に参加いただきました。これは、看護に携わる人と患者さんとのふれあいを通して、看護する喜びを実感していただくイベントです。

各部署での看護体験では患者さんの足を拭かせていただいたり、血糖測定やインスリン注射の場面を

見学したり、また、院内見学ではドクターヘリを見ていただきました。「大変けどやりがいのある仕事だとわかりました。看護師を目指します」と参加者は笑顔で話されました。



■潜在看護師の復職支援を推進しています。

仕事にブランクがあり、現場復帰に不安がある看護師の復職をお手伝いする研修を開催し、今年で4



年目となります。研修内容は、医療安全や感染管理に関する講義や採血、静脈注射などの演習です。また臨床心理士によ

るメンタルヘルスの講義も取り入れています。過去に参加された方からは、「丁寧に指導をしてもらえた」「基本を学べ、現場復帰の自信になった」「復帰する勇気を持てた」などの感想をいただいています。参加された方の中には、現在、当院や他の施設で活躍されている方もいらっしゃいます。25年度は、11月14日(土)、1月16日(土)に開催予定です。

看護師
助産師
募集中

和歌山県立医科大学附属病院では看護師・助産師を募集しています。

※募集等詳細につきましては当大学ホームページをご覧ください。または下記までお問い合わせください。

TEL 073-441-0711 (事務局総務課) URL <http://www.wakayama-med.ac.jp>

公立大学法人和歌山県立医科大学 和歌山市紀三井寺811-1

お知らせ

県民公開講座

みんなで知ろうがん治療と口腔ケア ～口の中の細菌と恐怖～

がん治療と口腔ケア。つながりがないように思えますが、実は密接な関係があります。

今回の講演では、がん治療前後の歯科治療と口腔ケアがいかに重要であるか、その必要性と理由を皆さんに知っていただくことが目的です。この機会にぜひご参加ください。



■日時 9月29日(日)午後1時～午後4時

■場所 和歌山県民文化会館大ホール

◆基調講演

1. 口は幸いと災いの元

静岡県立静岡がんセンター 総長 山口 建

2. がん患者さんを支える歯科の役割～安全ながん治療のために～ 国立がん研究センター中央病院 総合内科・歯科 上野 尚雄

◆パネルディスカッション

■問い合わせ 一般社団法人 和歌山県歯科医師会事務局
Tel.073-428-3411

参加費:無料

第13回和歌山県地域医療フォーラム2013 お腹のがんをなおす

～最先端の治療をうけるために～

参加費:無料

※当日の入場には整理券が必要です。

ご希望の方は下記まで電話・Faxで申し込みを。

■日時 10月19日(土)午後2時～午後5時

■場所 和歌山県立医科大学講堂

◆講演 和歌山県立医科大学第2外科

【司会進行】教授 山上 裕機

【演題・演者】1. 食道がん 講師 中森 幹人

2. 胃がん 講師 中村 公紀

3. 食道がん・胃がんに対するワクチン療法
助教 勝田 将裕

4. 大腸がん 准教授 堀田 司

5. 消化器がんに対する内視鏡治療
准教授 瀧藤 克也

6. 肝がん 講師 上野 昌樹

7. 膵がん 准教授 谷 真至

◆質問・相談コーナー

■問い合わせ・整理券申し込み

和歌山県立医科大学医学部同窓会

Tel・Fax.073-448-0478 (月曜～金曜/正午～午後4時)

市民公開講座

“緩和ケア”って何をしてくれるの?

～がんと診断されたときから看取られるまでの医療従事者との関わりを再現～

参加費:無料

■日時 10月5日(土)午後1時30分～

■場所 和歌山ビッグ愛6階

◆ロールプレイ講演内容～(午後1時35分～2時30分)

「がんと診断されたときから看取られるまでの医療従事者との関わり」

【演者】

緩和ケア病棟 担当医師 月山 淑

身体症状を担当する医師 腫瘍センター緩和ケア部門 助教 栗山 俊之

精神症状を担当する医師 神経精神科 助教 坂本 友香

がん看護専門看護師 温井 由美 がん性疼痛看護認定看護師 石徹白 しのぶ

病棟看護師 岡本 祐子 薬剤師 中村 真理 地域連携室 関本 查智子

◆質疑応答(午後2時30分～3時)

■問い合わせ

和歌山県立医科大学同大学がんプロフェッショナル養成センター
Tel. 073 - 441 - 0825

2013年和歌山県

第15回皮膚ガン無料相談

参加費:無料

～皮膚ガン死亡ゼロを目指して～

■日時 10月26日(土)午後1時～午後4時

■場所 和歌山ビッグ愛1階大ホール

◆特別講演

【座長】小倉皮膚科 院長 小倉 治雄

【演題】「“人類の進化と発ガン、紫外線、ビタミンD、肌”を巡るヒューマン伝説の正解はこれだ」

【演者】和歌山県立医科大学

皮膚科学教室 教授 古川 福実

◆皮膚ガン無料相談(午後2時～午後4時)

■問い合わせ

和歌山県立医科大学皮膚科学教室
Tel・Fax.073-441-0661

B型肝炎フォーラム2013

～最適なB型肝炎治療が受けられるように～

■日時 9月29日(日)午後2時～午後5時

■場所 和歌山ビッグ愛2階201

参加費:無料

◆講演

①誰か肝がんになりやすいのか 消化器内科 講師 玉井 秀幸

②肝がんの発症を抑えるための治療とは 消化器内科 学内助教 森 良幸

③肝がんを早期に発見するために 消化器内科 講師 玉井 秀幸

④肝疾患相談支援センターの紹介 肝疾患相談支援センター看護師 魚海 明美

◆健康相談Q&A

■問い合わせ

和歌山放送「B型肝炎フォーラム2013」事務局
Tel.073-428-1431

予約センターからのお知らせ ～診察予約のご案内(初めて受診される方)～

当院の外来受診は、原則として「**予約制**」とさせていただきます。
ご予約は、できるだけかかりつけの医療機関などからFAXでお申し込みください。

■医療機関からのご予約

- ① かかりつけの医療機関などから当院所定の「**予約申込書**」にて地域連携室にFAX送信してください。
- ② 20分以内を目途に予約をお取りし、予約日時・医師名を記載した予約票を発信元の医療機関にFAX返信いたします。
- ③ 予約当日は、**予約票・紹介状・保険証・診察券(受診歴のある方)**をご持参のうえ、**外来受付**に直接お越しください。

地域連携室
FAX番号: 073-441-0805
受付時間: 月～金 9:00～17:00
(土・日・祝日・年末年始を除く)

※毎週金曜日は試行的に18:00まで受付しています。

■ご本人からのご予約

- ① **かかりつけの医療機関などで紹介状**をご用意ください。
※特定の医師による診療をご希望の場合は必ず「〇〇科 〇〇医師」と明記した紹介状をご用意ください。
- ② 「**当院予約センター**」に直接お電話ください。
- ③ 予約当日は、**紹介状・保険証・診察券(受診歴のある方)**をご持参のうえ、**外来受付**に直接お越しください。

電話予約センター
電話番号: 073-441-0489
受付時間: 月～金 8:30～16:00
(土・日・祝日・年末年始を除く)

※電話だけでなく9:30～17:00まで
院内の予約窓口も開設しています。

病院ボランティア募集

和歌山県立医科大学附属病院では、外来または病棟で、患者さんが安心して治療を受けることができるようお手伝いして下さるボランティアの方を募集しています。
※年齢制限等はありません。



活動時間

- 【外来①】 8時50分～11時30分
 - 【外来②】 11時50分～14時50分
- 病棟 病棟と調整の上決定します。

問い合わせ先

和歌山県立医科大学附属病院
代表:073-447-2300 医事課 ボランティア担当
みなさまの温かいお力をお待ちしております。

患者さんの権利

当院では、受診される皆様が、以下の権利を有することを**確認し、尊重**します。

- 1 個人として尊重され、平等に良質な医療を受ける権利があります。
- 2 診療に関して、十分な説明と情報を受ける権利があります。
- 3 十分な情報を得た上で、自己の意思に基づいて医療を受け、あるいは拒否する権利があります。
- 4 他の医療者の意見(セカンドオピニオン)を求める権利があります。
- 5 個人情報やプライバシーを保護される権利があります。

※当院では、患者さんの安全を守ることを第一に診療を行っておりますが、他の患者さんや職員への暴力・暴言・大声・威嚇などの迷惑行為があった場合は診療をお断りすることや退去を求めることがあります。著しい場合は警察に通報いたしますのでご了承ください。

患者さんへのお願い

当院では、さまざま医療を提供しておりますので、次のことを十分ご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

- 1 適切な医療を実現するために、患者さんご自身の健康に関する情報をできる限り正確にお話してください。
- 2 医療に関する説明を受けられて理解できない場合は納得できるまでお聞きください。
- 3 治療上必要なルールはお守りください。また治療を受けていて不安を感じましたらすぐにお知らせください。
- 4 すべての患者さんが適切な医療を受けられるようにするため、他の患者さんのご迷惑にならないようご協力ください。
- 5 当院は教育・研究機関でもありますので、医学生・看護学生などが実習や研修を行っております。ご理解とご協力をお願い申し上げます。

<外来受付時間>

- ・受付時間 午前8時50分～午前11時30分
- ・再診で予約のある方は指定時間(予約票の記載時間)
- ・休診日/土曜日・日曜日・祝日・年末年始(12月29日～1月3日)
- ※診療スケジュールは、ホームページからご覧いただけます。